

# 癌末期・難病対応強化

## 既存ホームに24H常駐の訪看併設

グッドタイム  
リビング



岡口雅信  
会長

河合淳  
社長

社員数	約2000名
展開施設数	
有料老人ホーム	29棟
(うち介護付有料老人ホーム)	7棟
シニア向けマンション	3棟

大和証券グループのグッドタイムリビング（東京都中央区）は一部の住宅型有料老人ホームにおいて、癌末期や難病などに対応できる体制への転換を図っている。ケアマネジャーを中心とした連携体制がさらに重要になるとして、教育体制、組織体制を根本から強化している段階という。同社の岡口雅信会長と河合淳社長に、現在の注力分野について話を聞いた。

2023年10月、住宅型有料老人ホーム「グッドタイムリビング 千葉みなと」(108室・定員183人)に介護保険と医療保険に対応する訪問看護を併設した。看護師が24時間常駐する訪看開設は同社初となる。

従来ホームに併設していた訪問介護と連携しながら訪問看護師が

24時間ケアにあたり、癌末期やパーキンソン病をはじめとする指定難病にも対応できるようにする。従来の同社の顧客層をターゲットに「高価格帯の医療対応型ホーム」として打ち出していく考えだ。

千葉みなと「駅前通のホームには2人部屋が多い。夫婦のどちらかが癌や難病を患う場合が多い」という。

合にも同居を続けたいというニーズが高いと見込む。23年12月までにそうした医療依存度の高い人が8名ほど入居している。

同社が展開する有料老人ホームの平均介護度は約2・5(23年11月時点)。要介護度や医療依存度の高い人の割合は増加傾向にあるという。

「今後医療ニーズの増加、独居高齢者の増加が見込まれる中、高齢者住宅のような集合住宅で医療ケア体制を整備しておくことが介護事業者の重要な役割だ」と岡口会長は語る。医療ケアを行うにあたり、看護師が日常的に入居者の様子を把握できる状態をつくること

が重要だとし、既存ホームに自社の訪看を併設する形をとった。

さらに、介護保険のほかに医療保険も収益源の柱とすることで、事業基盤を強固にした

い狙いだ。ほかの既存ホームについては「医療対応型」というコンセプトを打ち出す予定

「今後医療ニーズの増加、独居高齢者の増加が見込まれる中、高齢者住宅のような集合住宅で医療ケア体制を整備しておくことが介護事業者の重要な役割だ」と岡口会長は語る。医療ケアを行うにあたり、看護師が日常的に入居者の様子を把握できる状態をつくること

### 金融との連携視野 「パーパス」も新たに

型訪問介護看護を併設し、オペレーションの検証を進めている。今後の事業拡大について、24年中に関東・関西エリアで複数カ所の訪看併設を検討中という。

修は23年4月から毎月1回のペースで実施している。

研修を担当する外部講師とは、課題を共有し綿密に内容を練る。以前現場の課題をヒアリングしたところ、職

多職種連携に力  
議論できる組織

多職種連携を支える土台としての組織作りも進める。22年12月より、「インナーブランディング」プロジェクト

をスマートフォンのみ取ればいつでも、パーパスをはじめ自社サービスの特徴などを確認できるようにした。

大和証券は19年にオリックスグループから同社の株式を譲受し、コロナ禍以降は運営体制の立て直しを軸に据えてきた。

今後は大和証券とのシナジー創出も視野に入る。富裕層を対象としたグッドタイムリビングの顧客層は、大和証券の顧客層と一致する部分も多い。今後、大和証券の支店との接点を強化していきたい」（河合社長）